

外部評価報告書

平成27年9月10日

帯広畜産大学地域連携推進センター長 殿

【評価委員】

AA社	取締役 専務執行役員	A氏
BB社	研究統括部 中央研究所 所長	B氏
CC社	研究開発部長	C氏
DD社	総合研究所 第2グループ 上席研究員	D氏
EE社	研究開発本部 グローバルスタンダード課 課長	E氏

貴センターから付託された、帯広畜産大学が進める実践的教育における地域連携推進センターの役割に関する評価について、平成27年7月30日に開催した外部評価委員会要録（別添）に基づき、委員間において以下のとおり評価の結論を得たので報告する。

1. 全体評価

大学における教育が、より実社会と密接にきょうすべきとされる時代に即し、従来からの実学重視の傾向をさらに発展させていることについて、高く評価し敬意を表する。

2. 特筆すべき取り組み

貴センターが、貴学の教育方針である「食を支え、暮らしを守る」人材育成の一環として、食のグローバル化に資する食品安全マネジメントシステムに関する知識を備えた人材の育成に注力されている点、日本の食料基地たる十勝地域にあって全国唯一の畜産系国立大学としての使命及び強みを存分に発揮される取り組みとなっており、今回、評価委員が食産業から抽出されていることもあって、過去一連の食の安全を脅かす事件、事故に鑑みても、社会ニーズ、業界ニーズに沿った人材創出として注目するところである。

また、学内実習施設等における企業現役の実務者による実習等についても、学生の教育のみならず、派遣する企業にとって社員の自己啓発ともなっているなど、双方向の教育として非常に有益である。

3. 改善を要すべき事項

事前の提示のあった評価資料に記載された課題については、企業とともに検討すべき事項が多数あ

り参考となったところ、なお貴学において改善すべきという点について、インターンシップの在り方については、その内容・効果に企業等思惑との相違が感じられるので、上手くコーディネートしていただきたい。

4. 今後への期待

貴センターのこれまでの取り組みについては、社会ニーズに即した取り組みになっており、企業等としても、大学との接点を持つ上で、貴センターのような取り組みに関与できることはメリットが大きいと考えるところ、今後も社会ニーズ等に立脚した実効のある取り組みを継続されるよう期待する。